



平成29年度 稲作こよみ

津安芸農業協同組合
監修 J A 全農 みえ

生育時期	品種	田植	中干し開始	出穂		出穂	落水	成熟
				20日前	18日前			
生育時期	みえのえみ	3/26	4/20	5/30	6/25	7/15	8/12	8/19
	コシヒカリ	3/24	4/15	6/1	6/27	7/15	8/14	8/20
		4/5	4/25	6/5	7/2	7/20	8/19	8/25
	4/18	5/5	6/10	7/5	7/23	8/24	8/30	
キヌヒカリ	3/31	4/25	6/4	7/6	7/26	8/25	9/2	
みえのゆめ	4/10~15	5/5	6/14	7/16	8/5	8/31	9/7	

水管理	主要作業	病害虫防除
<p>中干</p> <p>※乾きにくい圃場は溝切りを!!</p> <p>根痛みに注意!!</p> <p>中干し直後は走り水</p> <p>の间断灌水又は足跡水</p> <p>5~7日に1回水を入れる程度</p> <p>出穂期は水が必要</p> <p>重要水管理期間</p> <p>未熟粒防止の為に</p> <p>落水が早いと減収する</p> <p>収穫7日前まで土壌水分を維持</p>	<p>イネミズゾウムシ</p> <p>イネドロオウムシ</p> <p>イネクロカメムシ</p> <p>ホソハラカメムシ</p> <p>トヨハラカメムシ</p> <p>ケイカル・ようりん施用</p> <p>堆肥施用</p> <p>土づくり</p> <p>収穫後早期に耕起する</p> <p>一穂に青粉が2~3粒残って</p> <p>適期刈り取り</p>	<p>箱施用の防除(田植時の防除)</p> <p>イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ</p> <p>○箱施用による1回防除(バリアード箱粒)</p> <p>○箱施用ができなかった場合の防除(トレボソ粒)</p> <p>10アール当り2kg</p> <p>5月中旬~6月中旬に施用</p> <p>イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ</p> <p>○発生を認めたら直ちに粉剤で防除する</p> <p>ブラシン粉DL 3kg</p> <p>生育中期の防除</p> <p>葉いもち</p> <p>○予防は粒剤で防除する</p> <p>コラトップ粒 3kg</p> <p>キタサンP粒 3kg</p> <p>○発生を認めたら直ちに粉剤で防除する</p> <p>コラトップ粒 3kg</p> <p>フジワング粒 3kg</p> <p>穂いもち</p> <p>○穂ばらみ期(粒剤、粉剤)、穂揃期(粉剤)</p> <p>コラトップ粒 3kg</p> <p>フジワング粒 3kg</p> <p>出穂期前後の防除</p> <p>いもち病・カメムシ類</p> <p>ダブルカットスタークル粉DL 3kg</p> <p>○出穂期~穂揃期の夕方に防除する</p> <p>紋枯病</p> <p>モンカットフロアブル 500ml</p> <p>○出穂前15日前後が散布適期</p> <p>稲こじ病</p> <p>イモチミン粒 3kg</p> <p>○出穂2~3週間前が散布適期</p> <p>カメムシ類</p> <p>スタークル粒 3kg</p> <p>○イネクロカメムシは発生初期6月上旬頃</p> <p>○斑点米カメムシは出穂期前後</p>

※農薬を使用する際は、周辺作物等への飛散(ドリフト)に充分注意してください!! ※気候条件によって前後する場合があります。

白未熟粒(シラタ)軽減対策

白未熟粒の発生は、出穂後20日間の平均気温が27℃を超えると急激に増加する。また、発生要因は高温だけでなく、水や日照時間、施肥量不足などの複合的な要因も考えられている。平均気温が27℃以下になる頃に出穂時期を迎えるように田植えを行うことが望ましいが、その場合、田植えが6月上旬頃となる。

上記のように作付け時期を遅らせる、もしくは作付け時期の遅い品種に変更することが白未熟粒を軽減させる対策としてはもっとも有効と考えられるが、現状では困難であるため、下記の方法を白未熟粒軽減対策として推奨する。

●土づくり

ケイカルなどの土壌改良資材を収穫後に散布し、根張り良くしっかりとした稲を作り、倒伏や病害虫を発生しにくくし収量・食味を向上させる。

●早期落水の防止

早期に落水する事により土壌水分が低下して、株が枯れ、白未熟粒が発生しやすくなるので収穫7日前までは落水せず、土壌水分を維持させる。

●白未熟粒軽減資材の活用

数年前より、県の農業研究機関にて試験を行なった白未熟粒軽減資材(下記参照)を施用する事により軽減させる(但し、気象条件等により効果に差があります)。

施肥設計

◎コシヒカリ元肥一発(10a)

白未熟粒軽減資材

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	エムコート022	35~40kg
	セラコートR822	40kg前後

従来品

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	エムコート824	40kg前後
	セラコートR845	

◎コシヒカリ緩効性肥料(10a)

施用時期	肥料名	施用量
田植10日前~田植時	津安芸水稲化成	25~35kg
	IB化成050	
追肥第1回目(出穂18日前)	NK化成4号	10~20kg
追肥第2回目(出穂7~10日前)	NK化成4号	10~20kg
追肥第3回目(出穂頃)	NK化成4号	5~10kg
追肥一発(出穂18日前)	グッドIB045	20~25kg

◎その他の品種元肥一発(10a)

品種	肥料名	施用量
あきたこまち	エムコート583(早生用)	40~50kg
みえのえみ		
みえのゆめ	セラコートR2500(中晩生用)	45~55kg

◎品質・登熟向上資材(10a)

資材名	施用量	施用時期
品質向上	けい酸加里	20~40kg
	出穂前45~35日まで	
登熟向上	マルチサポート	20~40kg
	出穂前45~35日まで	
	FTEミネラス	3~6kg
	出穂前35~25日まで	

効果

1.活力ある根が張り、稲体を強化し倒伏に強くなります。
2.登熟が高まるとともに粒張りが良くなり、食味向上に役立ちます。

育苗

◎種子の準備 毎年種子更新しましょう。

◎塩水選

うるち米	もち米
生卵	生卵
水10ℓ	水10ℓ
食塩 約2.1kg	食塩 約0.9kg
1.13の塩水	1.06の塩水

◎種子消毒

作業	温度・日数	要	点
消毒	15~20℃	みえのゆめ以外の品種	
	24時間	種粒と同容量の薬液を作る(水20ℓ当り)	
		テクリードフロアブル...100ml	
		(馬鹿苗病もみ枯菌菌病)	
		スミチオン乳...20ml(イネシンガレセンチュウ)	
		みえのゆめ	
		種粒と同容量の薬液を作る(水20ℓ当り)	
		モミガードドライフロアブル...100g	
		(こま葉枯病 必須)馬鹿苗病もみ枯菌菌病)	
		スミチオン乳...20ml(イネシンガレセンチュウ)	
浸種	10℃では	水の量は粉の容積の2倍以上とする	
	10~12日	始め2~3日は静置、その後1~2日毎に水を換え	
	15℃では	コシヒカリでは長目に漬ける	
	7日~	※積算温度100℃以上	
催芽	30~32℃	ハト胸とし、芽は伸ばさない	
	1~2日		

(注) テクリードフロアブルは使用前に容器をよく振ってから使用して下さい。廃液は河川水路に流さないでください。

◎育苗箱消毒

イチバン500~1000倍液に箱をさっと漬ける

◎培土

箱入れ後、乾かさないうち注意しましょう。(1箱当り約3~4kg必要)

◎病害防除

農薬名	時期	1箱当り施用量	備考
タチガレエースM粉	播種直前	6~8g	ムシ苗にも有効
タチガレエースM液	播種時	500~1000倍、500ml	ムシ苗にも有効

◎播種

播種は苗葉を悪くする。催芽粒1.5~1.8合とする。均一に播く。土の表面の水が引いてから播種する。覆土は粉がかくれる程度

◎育苗管理

作業	温度・日数	要	点
出芽	30~32℃	芽の長さ1~1.5cmにする	
	約2~3日	光を当てない	
緑化	日中20~25℃	緑化は2段階の作業	
	夜間15~20℃	(1)緑になるまで覆いをする(新聞紙など)	
	(保温・暖房)	(2)鞘の部分3.5cmに伸ばす	
	約3日	フジワングによる健苗育成、ムシ苗予防	
		播種後3~7日に散布。25~50g/箱	
		早い程、又葉量が多い程短苗になるので注意	
		被覆中もカビの発生に注意	
硬化	日中15~20℃	日中高温にしないように特に注意する	
	(換気)	緑化用の厚手白ビニールは使わない	
	夜間10~15℃	ハウス・トンネルは一日中当りの良い場所	
	(保温)	灌水は1日1回、1~1.2ℓ/箱	
	約15日~20日	午前中(遅くとも15時まで)がよい	
		ハウス内にワラ、モミガラがあるとイもち病が伝染する。	
		箱の下にビニールを敷く場合は穴をあける	

土づくり

土づくりは品質向上への第一歩です。

(1)有機物の施用	(2)深耕	(3)土づくり肥料の施用
堆肥を連年施用する(年内施用)1~2トン	耕作層を深くする(15~20cm)	ケイカル
湿田、半湿田では完熟のもの500kg	下層が不良土壌の場合は行わない	又はリンスターケイカル 200kg
稲わらすき込み		単品ならケイカル 200kg
●秋起こし(刈取直後)		又はようりんリンスター 40kg(黒ボクでは80kg)
●石灰窒素10~20kg(秋起こし時)施用		コシヒカリには特にケイカルが必要
		ケイカルは省ケイカル
		●農カアツなら反当り100kg

除草

使用区分	使用時期(日)	田植	3	5	7	10	15	20	30	40	50
難防除雑草											
多発田(抵抗性ホタルイ対策剤)											
体系処理											

除草剤の正しい使い方

- 散布適期、散布量を厳守する。
- 田面の均平と適正な水管理。

田植え同時散布可能な 初中期一発除草剤

- トップガンGT1キロ粒
- トップガンLフロアブル
- ウィナーキロ粒
- ウィナーLフロアブル

ノビエに対する使用時期

農薬名	使用時期
ウィナーキロ粒	2.5葉期まで
ウィナーLフロアブル	2.5葉期まで
トップガンGT1キロ粒	3.0葉期まで
トップガンLフロアブル	3.0葉期まで
トップガンGT1キロ粒	3.0葉期まで
トップガンLフロアブル	3.0葉期まで
トップガンGT1キロ粒	3.0葉期まで
トップガンLフロアブル	3.0葉期まで
トップガンGT1キロ粒	3.0葉期まで
トップガンLフロアブル	3.0葉期まで

※ムレ苗防止 健苗育成にフジワング粒!! イネミズゾウムシ・イネドロオウムシ・ニカメイチュウ・いもち病にはDr.オリゼスタークル箱粒で!!

※品質向上には、毎年種子更新と土づくりをしましょう!! ※稲ワラの流出防止のため収穫後早期に耕起しましょう!!

防除日誌

使用月日(天候)	使用薬剤名	倍率・量	全使用量	使用目的
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				
月 日()				

作業日誌

作業月日	圃場	作業内容	備考
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			
月 日			

安全・安心な米づくりのために栽培履歴(防除日誌)を必ず記帳しましょう! 農薬の安全使用基準を守りましょう!